グテ居ルカ略ス。

齒牙腫ノ顯微鏡の所見ハ“「オドントーム」ト云フモノハ數年ノ短時期ノ後完全ナ石灰化(Dentifikation)ガ遂行セラレルヤソノ發育ハ中止スルモノデアル”ト云フ Wolf 氏ノ意見ヲ確證シテキル。Siegmond Weber 氏ノ説ニシタガヘバ「Odontom」ハ缺損齒部或ハ埋伏齒部ニ見出サレルモノデアル。コレハ前者即チ缺損齒部ニ見出サレルト云フコトハ中ツテキル。然シ埋伏齒ノ場所ニハ「オドントーム」ハ存在シナイ。コレハ「オドントーム」ガ作ラレタコトニヨリ齒牙ノ埋伏ヤ偶然ナル轉位ガナサレタノダラウト私ハ思フ。私が觀察シタ集合性齒牙腫ハ乳齒ノ晩期殘存ト關係ヲモツテキタコトハ恐ラク偶然ナルコトデハナカラウ。ダカラコレラ齒牙腫ハ非常ニ稀ニシカ現ハレルモノデナイガ殘存乳齒(Persistierenden Milchzahn)ガ特ニ顎ノ前部ニアル時ヘ一應注意ヲ拂フベキデアル。齒牙交換期ガ過ギテ最早生理的萌出力ガナクナレバ私ノ方法(G. Hesse, Zur Behandlung retinierter Zähne. Korresp. bl. Zahnärzte 41)デ外科矯正的ニ永久齒ヲ引張り出ス様ニスルト良カラウ。カ、ル「オドントーム」ヲ除去スルニハ常ニ合目的ニ行ヒ「オドントーム」ノ周圍ニハ常ニ結締織性被膜ガアルト云フコトヲ忘レテハナラナイ。何トナレバ Ryrvkind 及 Schürmann 氏ノ最近ノ研究ガ示ス如ク「エピテル」ガ硬組織及齒牙ノ膜中ニ作ラレ、コレガ有ルタメ又殘ツテキルタメ再發ヲ起ス原因トナルモノナリ。最近齒牙腫ノ原因ハ齒芽ガ作ラレル際齒芽上皮ノ分裂及分枝ニヨルモノデアルト云フ説明ガナサレテキル。最後ニ「オドントーム」ト云フモノハ炎症機轉カラモ起ルモノナレバカ、ルトキハソノ炎症機轉ヲ除クト云フ Rosenthals 氏ノ説ニ私ハ賛成ス。(金香正治)

齒科醫學ニ於ケル新麻醉法及ヒ其ノ使用價值ニツイテ

Dr. Emil Hanbenreisen

Die neuen Narkosenverfahren und ihre Verwendbarkeit in der Zahnheilkunde.

Deutsche Zahnärztliche Wochenschrift. Nr. 1. 1935.

著者ハ齒科醫學ニオケル新麻醉劑トシテ, Avertin, Pernocton, Evipan-Natrium, Somnäthyl Gewäthyl ヲアゲ, ソノ麻醉方法, 使用價值ニ就イテ述ベテキル。

1. Das Avertin. 普通用ヒル時ニハ Amylenhydratlösung ノ Avertin 溶液ヲ使用スル。麻醉方法トシテハ直腸麻醉ヲ行フノデアルガ, ソノ前準備トシテ Schulze 氏法ヲ用ヒル。注射量ハ各人ノ年齢, 體質, 性等ニヨリ異ルガ, 平均 1 kgr ニ對シ 0.08—0.12 gr ヲアタヘル。男性ニ對シテハ 8—10 gr 迄ヲ, 女性ニ對シテハ 6—8gr マテノ Avertinamylenhydrat 溶液ヲ使用スル。常ニ Avertin ヲ基礎麻醉トシ, 「エーテル」ヲ追加シテ深麻醉ニ到達セシムル。合併症トシテハ呼吸障礙, 血壓降下, 覺醒期ノ興奮等ヲアゲルコトガ出來ル。身體ノ抵抗力ノ低下シテキル者ニハ使用出來ナイ。齒科醫ヘ外來診療ニ於テ Avertin ノ直腸麻醉ヲ行フコトハ出來ナイ。顎關節ノ手術ノ際ニハ Avertin ハ成績ガヨイ。1929 年以來直腸麻醉ニカハツテ靜脈内注射ガ行ハレルヤウニナツタ。コノ際ニハ血栓ノ危險性ガアル。コレハ綿密ナ注意ト技術ニヨツテ防ギ得ルモノ

テアル。齒科醫學ニオイテハ 單ニ直腸麻醉が行ハレテキルガソレモ 入院患者ニノミ應用出來ルノテアル。

2. Pernocton. 化學的ニハ $\text{Blutzi-}\beta\text{-Bromyllyl barbitursäure}$ 「アンペーレン」トシテ供給サレテキル。ソノ麻醉量ハ體重 12.5kg ニ對シテ 1 ccm 以上ヲ超過シテハナラナイ。靜脈内ニ注射スル時ニハ緩徐ニ行フベキデアツテ 1 分間ニ 1 ccm ヲ注射スルノガ具合ガヨイ。適應症ト、處方ガ規定通リニ嚴守サレテキル場合ニハ殆ド危險性ハナイ。ソノ長所トシテハ、使用ガ容易ナルコト、作用ノ迅速ナルコト、血壓、呼吸ニ變化ヲアタヘヌコト、頭痛、不快、嘔吐等ノ副作用ナキコト等ガアグラレル。然シナガラ實際ニオイテハ相當危險性ガアリ、死シタ例モ少クナイ。普通ハ基礎麻醉トシテ用ヒル。補助麻醉トシテ「エーテル」、酸化窒素等ヲ用ヒル。重イ腎臟病ノ時ニハ使用禁忌テアル。Eiselsberg 氏等ハ、齒科醫學ニコレヲ用ヒルノハ入院患者ニノミ行フベキモノデ一般ニハ忌避スベキモノデアルト云ツテキル。

3. Das Evipan Natrium. 化學的ニハ $\text{C-C-Zyklohexenyl-N-methyl-barbitursäure}$ デアル。肘靜脈内ニ注射スルノデアル。注射ヲ行フ際ニハ、徐々ニ注射液ヲ注入シナケレバナラナイ。然ラズシテ急速ニ注射ヲスル時ニハ中樞神經系ハ容易ニ侵サレテ、不快ナ事故ヲヒキオコスコトガアル。注射量ニ關シテハ Epecht, Lauber, Klages 等ガイロイロト研究ヲ發表シテキルガ、未ダ確定的ノトコロマデ到達シテキナイ。各個人々々ニ對シテ適シタヤウニナルヨリ仕方がナイ。麻醉後ニ於テ、興奮、嘔吐ヲオコスコトガアル。多クノ場合後期睡眠ニ陥ル。全身ニ及ボス障礙ハ公表サレタトコロニヨルト稀ナモノデアル。Anschutz 氏ハ 1100 例中呼吸障礙ヲオコシタルモノ 7 例ヲ報告シテキル。齒科醫學ニ於テハ Evipan-Na. 麻醉ノ適應範圍ハ非常ニ制限セラレテキル。短時間ノ外來治療ニオイテハ使用スルコトが出来ナイ。入院患者ニノミ使用出來ル。口腔外觀血の手術ヲ行フ場合ニハ殊ニ有效デアル。モシモ後期睡眠ヲ顧慮ニ入レナイナラバ、拔牙、拔髓ソノ他小手術ノ際ニ、短時間ノ Evipan-Natrium 麻醉ハ適當ナモノデアル。傳麻ニヨツテ拔牙、膿腫ノ手術ヲ遂行スルコトが出来ル。

4. Somnāthyl und Gewāthyl. Somnāthyl ニ對シテハ Borchardt 氏ガ Somnator ニヨル新麻醉方法、Gewāthyl ニ對シテハ Eofer 氏ガ各々新麻醉方法ヲ發見シタ。共ニ口呼吸ニヨルノデアル。Lanzansky 氏ハ Gewāthyl 麻醉 170 例中、5 例ノ合併症ヲオコシタコトヲ報告シテキル。兩劑トモニ麻醉ノ前後ニ興奮ヲオコスコトハ稀デアル。嘔吐ハ決シテオコサナイ。患者ハ手術後ニ快ヨク麻醉狀態カラサメ、即座ニ爽快トナル。患者ハスグ家ニカヘルコトが出来ル。齒科醫學ニオイテコノ使用範圍ハ相當廣イ。短時間ノ外來治療ニオイテコレヲ用ヒルコトが出来ル。局所ニ炎症等ガアリ局所麻醉ノ行ハレザル手術ノ際ニ、コレヲ使用スルコトが出来ル。ソノ他體質的理由カラ Adrenalin ヲ含ム麻醉劑ノ使用ヲ禁止セラレテキル場合ニモコレヲ使用スルコトが出来ル。

結論 齒科醫學ニ用ヒラレルベキ麻醉劑ノ條件ハ、

1. 咽喉ノ反射機能ヲ消失セザルモノ。
2. 多ク外來テ治療ヲスルノデアルカラ、副作用、後作用ナキモノ。
3. 患者ニ精神的慰安ヲ與ヘルモノ。
4. 試験済ミノ危険ナキコトガ證明セラレタルモノ。
5. 使用方法ノ容易ナルコト。
6. 作用ノ迅速ナルモノ。
7. 低廉ナルモノ。

以上ノ點ニツキ、上述ノ麻醉劑ヲ吟味スルト、先ヅ第一ニ「エーテル」、第二 Gewäthyl、第三 Somnāthyl、第四 Evipan-Natrium ノ順ニ、推薦スルコトガ出來ル。 (池上豐重)

保存療法科

「アネストドント」ニ就イテ

Über Anaesthodont, Kapper. Zahnärztl. Rds. Nr. 17. 1935.

著者ハ「アネストドント」ヲ知覺過敏ノ齒牙ヲ無痛ニ削除スル場合ニ常ニ應用シテ居ル。該藥劑ハ亞砒酸ヲ含有セズ、「メントールオイゲノール」、「トリオキシメチレン」、「プレツカテヒン」ノ「モノメチールエステル」、P「アミノベンゾエゾイレエチルエステル」、「アミノベンゾイルヂエチルアミノエタノール」等ヲ含有シテ居ル。止針頭大量ノ「アネストドント」ヲ「セメント」假封ノ下ニ1—2日間放置スルト殆ンド90%ニ於テ無痛削去ニ成功スル。齒髓ノ疼痛ノ爲ニ罹患硬組織ヲ徹底的ニ除去シ得ヌガ如キ場合ハ「アネストドント」ヲ1日貼付シ、其ノ翌日之ヲ削去スル。未ダ嘗テ貼付ニ依ル齒髓炎ヲ經驗シタコトハナイ。本劑ハ上述ノ如ク極メテ便宜ナルモノデアルガ、其ノ作用ハ恐ラク象牙質中ノ神經末梢ニ作用シテ一過的ニ知覺消失ヲ來スモノノ如ク、齒髓ニ對シテ全ク作用ヲ及ボサザルコトニ關シテハ説明スルヲ得ナイ。何レニシロ長期間ノ貼付後ト雖モ亞砒酸糊劑ニ於ケルガ如キ爲害作用ハ見ラレナイ。

若シ2日間ノ貼付ニ依ツテ猶無痛狀態トナラザル時ハ尙1日更ニ貼付シテ差支ヘナイ。著者ノ經驗ニ依レバ僅少例ニ於テハ知覺ハ甚シク低下セルモ全ク無痛ト云フヲ得ザル狀態ノモノヲ經驗シテ居ル。斯ル場合ニハ止ムヲ得ナイカラ亞砒酸貼付又ハ注射麻醉ニ依ツテ拔髓スベキデアル。(檜垣麟三)

象牙質無痛法ニ暫間のニ使用セラルル「パラフォルム

アルデヒード」ニ就イテ

Über Paraformaldehyd in provisorischen Einlage zur Dentinanästhesie.

Herzog, Zahnärztl. Rds. Nr. 27. 1935.

著者ハ「パラフォルムアルデヒード」ノ藥理作用ニ關シテケック、プレーゲル氏等ト全然反對ノ結果ヲ得テ居ル。著者ハ依ツテ從來ハ「デンタモ」ヲ小兒齒科ニ於テノミ應用シテ居ツタ。著者ハ嘗